

安全データシート (SDS)

作成 : 平成 24 年 09 月 19 日

最新改訂 : 令和 05 年 06 月 22 日

【1.製品名及び会社情報】

製品名 : エレクトロンワックス M

会社名 : フルウチ化学株式会社
住所 : 東京都品川区南大井 6-17-17
担当部門 : 営業部
電話番号 : 03-3762-8161
FAX 番号 : 03-3766-8310
緊急連絡先 : 同上

推奨用途 : ホットメルト接着剤、研究用途、工業用途。
整理番号 : 230622-03Hs

【2.危険有害性の要約】

GHS 分類

健康有害性

呼吸器感作性 : 区分 1A
皮膚感作性 : 区分 1A
生殖毒性 : 区分 2
特定標的臓器 全身毒性
／ (単回ばく露) : 区分 3 (気道刺激性)

環境有害性 :

水生環境有害性(急性) : 区分 2
水生環境有害性(慢性) : 区分 2

※記載のないものは、分類対象外または分類できない

GHS ラベル要素

シンボルマーク :



感嘆符



健康有害性



環境

注意喚起語 :

危険

危険有害性情報 :

- ・吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

Furuuchi chemical SDS

No: 230622-03Hs エレクトロンワックス M

- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・呼吸刺激を起こすおそれ、または、眠気やめまいのおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期的影響により水生生物に毒性

注意書き：

<予防策>

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意(SDS など)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- ・換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
- ・指定された個人用保護具、保護手袋を着用すること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・屋外または歓喜の良い場所でのみ使用すること。
- ・環境への放出を避けること。
- ・炎及び高温のものから遠ざけること。

<応急措置>

- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

<保管>

- ・直射日光の当たらない冷暗所に密閉して施錠して保管すること。

<廃棄>

- ・内容物／容器を、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

【3.組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別：混合物
化学名又は一般名：ワックス
ホットメルト接着剤

成分および含有量：	成分	CAS NO.	含有量(%)
	ロジン(天然)	8050-09-7	60 - 70
	蜜蝋	8012-89-3	20 - 30
	添加剤	(未公開)	<10

官報公示整理番号：(ロジンは天然物で対象外)

【4.応急措置】

- ・以下のいずれの場合も直ちに医療機関に連絡し、医師または医療機関に適切な指示を求めるとともに速やかに医師の診断を受けられるように手配する。

飲み込んだ場合：

- ・口をすすぐこと。

Furuuchi chemical SDS

No: 230622-03Hs エレクトロンワックス M

吸入した場合：

- ・ 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- ・ 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。

目に入った場合：

- ・ 直ちに瞼を開き多量の流水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。洗浄は眼球・瞼の裏、その他目の細部に至るまで完全に洗浄する。
- ・ 洗浄は少なくとも 20 分間行う。
- ・ 眼刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。
- ・ 処置の最中から医療機関での処置に至るまで、被災者に付添人をつける。

予想される急性症状及び遅発性症状：

- ・ 喘息。

最も重要な兆候及び症状：

- ・ 喘息を起こすことがある。

その他：

- ・ 暴露の影響は遅れて出ることがある。
- ・ 医師、医療関係者に暴露の状況を伝えるとともに、2 次災害を防ぐための注意を通知する。

【5.火災時の措置】

消火剤：

- ・ 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。

使ってはならない消化剤：

- ・ 棒状放水。

特有の危険有害性：

- ・ 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
- ・ 激しく加熱すると燃焼する。
- ・ 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガス（ホルムアルデヒド等）を発生するおそれがある。

消火方法：

- ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 危険でなければ、火災区域から容器を移動する。
- ・ 安全に対処できるならば、着火源を除去する。

消火を行う者の保護：

- ・ 消火は周囲の安全を確保し、適切な呼吸装置、防護衣などを着用して行う。

【6.漏出時の措置】

Furuuchi chemical SDS

No: 230622-03Hs エレクトロンワックス M

人体に対する注意事項：

- ・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- ・ 適切な保護具を着用するまで、破損した容器、漏出した本品に接触してはならない。
- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 漏出物が河川、水路へ流出または地下へ浸透することを防ぐ

封じ込め及び浄化の方法・機材：

- ・ 漏洩物をウェスや土砂等に吸着させて、密閉できる空容器に回収し後で廃棄処理する。
- ・ 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
- ・ プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

二次災害の防止：

- ・ 全ての着火源を速やかに取り除く。

【7.取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。
- ・ 皮膚や眼、衣服等に付着しないように、保護具、保護設備を使用する。
- ・ 呼吸器用保護具を着用すること。

局所排気／全体換気：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。

注意事項：

- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 作業場所では換気を十分に行う。
- ・ 緊急時に備えて、安全シャワーや洗眼の設備を備える。
- ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。

混触危険物質との接触回避：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。
- ・ 酸化剤及び強酸化性物質。

保管

適切な保管条件：

- ・ 消防法の規制に従う。
- ・ 容器を密閉し、冷暗所に保管すること。

安全な容器包装材料

- ・ データなし。

不適切な容器包装材料

- ・ データなし。

【8.暴露防止及び人に対する保護措置】

暴露限界値

管理濃度： 未設定

Furuuchi chemical SDS

No: 230622-03Hs エレクトロンワックス M

許容濃度： 知見なし

設備対策：

- ・ この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具：

- ・ 呼吸用保護具： 適切な呼吸保護具を着用すること。
- ・ 保護メガネ： 適切な保護メガネ、顔面保護具。
- ・ 保護手袋： 適切な保護手袋の着用。
- ・ 保護長靴： 適切な保護具の着用。
- ・ 保護衣： 適正な保護具を着用すること。

【9.物理的及び化学的性質】

外観：	淡黄色から淡茶色
臭い：	データなし
pH：	データなし
融点／凝固点：	約 64℃
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし
引火点：	約 200℃
発火点：	データなし
燃焼または爆発の範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重：	データなし
溶解度：	水に不溶
オクタノール／水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし

【10.安全性及び反応性】

安全性・反応性：	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
避けるべき条件：	直射日光、高温、裸火、火花。
混触危険物質：	強力な酸化剤
危険有害な分解生成物：	燃焼した場合、刺激性の有毒ガス（ホルムアルデヒド等）が発生する可能性がある。

【11.有害性情報】

急性毒性：	経口	ラット LD50 > 5,000 mg/kg (但しロジンとして)
		ラット LD50 > 5,000 mg/kg (但し蜜蝋として)
	経皮	ラット LD50 > 2,500 mg/kg (但しロジンとして)
		との記載もあるが十分なデータなし。分類できない。
皮膚腐食性／刺激性：		データなし。
眼に対する重篤な損傷／刺激性：		データなし。
生殖細胞変異原性：		データなし。
呼吸器感作性：		日本産業衛生学会ではコロホニウム(ロジン)として気道感作性物質第 1 群に分類されている。喘息、喘鳴、息切れ等の症状発

Furuuchi chemical SDS

No: 230622-03Hs エレクトロンワックス M

皮膚感作性：	生の疫学研究報告や症例報告が多数ある。(ACGIH 8 th ,2020)。混合物の区分法より、区分 1A とした。 日本産業衛生学会ではコロホニウム(ロジン)として皮膚感作性物質第 1 群に分類されている。アレルギー性皮膚炎の症例報告が複数なされている(ACGIH 8 th ,2020)。 混合物の区分法より、区分 1A とした。
発がん性：	データなし。
生殖毒性：	ロジンとして、ラットを用いた親動物に一般毒性影響がみられる用量で、生殖発生影響がみられた(REACH 登録情報 Accessed Sep.2021)。 混合物の区分法より、区分 2 とした。
特性標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)：	ロジンとして、呼吸器への刺激性があると報告されている(ACGIH,2020)。 混合物の区分法より、区分 3 (気道刺激性) とした。
特定標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)：	データなし。
吸引性呼吸器有害性：	データなし。
注意：	使用者は未知の有害性を常に存在するものとして十分な注意を払う必要がある。

【12.環境影響情報】

水生環境有害性(急性)：	ロジンにおいて、甲殻類での EC50=4.5mg/L との記載(IUCLID ,2000)がある。 混合物の区分法より、区分 2 とした。
水生環境有害性(慢性)：	ロジンにおいて、急性毒性区分 2 かつ急速分解性がない(BOD による分解度：36-46%(IUCLID,2000))との記載がある。 混合物の区分法より、区分 2 とした。

【13.廃棄上の注意】

残余廃棄物：	廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って、危険有害性のレベルを低い状態にする。 産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。
容器：	付着物があることを十分に認識し、洗浄等して廃棄すること。 産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。

【14.輸送上の注意】

- ・ 陸上輸送：毒劇法及び消防法に従う。
- ・ 海上輸送：船舶安全法の規制に従う。
- ・ 航空輸送：航空法の規制に従う。
- ・ 安全対策：重量物を上積みしない。
輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食料や飼料と一緒に輸送してはならない。

【15.適用法令】

Furuuchi chemical SDS

No: 230622-03Hs エレクトロンワックス M

労働安全衛生法：	名称等を通知すべき危険物及び有害物（ロジン；施行令第18条の2） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（ロジン；法第57条、令第18条） 危険性または有害性等の調査対象物質（ロジン；法第57条の3）
化学物質管理促進法（PRTR法）：	該当しない。
毒物及び劇物取締法：	該当しない。
消防法：	指定可燃物 可燃性固体類（ロジンとして）
海洋汚染防止法：	有害液体物質（Y類物質 440 ロジン）

【16.その他の情報】

- ・ 記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではありません。全ての化学製品には未知の危険有害性が有るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定ください。また特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。
- ・ 本データシートそのものは安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものであり、安全の保証書ではありません。
- ・ 製品の形状、状態に対する注意
 - i. 製品名に対し、基本的に形状による物理化学的危険性、健康有害性及び環境有害性の変化が小さいときは、その形状を規定していない場合があります。但し、本文中で形状の変化による危険性、有害性の変化に言及していることもあります。また弊社にて想定していない環境においては、形状の差異により危険性、有害性が高まる場合もあります。
 - ii. 製品名に対し Powder, Granule の表記がある場合は、製品が粉末又は顆粒状であることを意味しています。主に金属の場合には粉末状で、発火や爆発の危険性が高まる場合がありますので、ご注意ください。
 - iii. 製品名に対し、Piece の表記がある場合は以下のような粉末状以外の形状を示しています。但し製品が塊状の場合であっても、保管、取扱いの状況により粉末（粉塵）が発生し、危険性、有害性が高まる可能性があります。形状の変化が起こり得る保管、使用環境が想定される場合には、事前に安全対策を実行してください。
Piece: Chips, Flakes, Chunk, Shot, Sheet, Wire, Stick, Rod, Pellet, Block, Ingot, Target.

参考文献

- ・ （独）製品評価技術基盤機構（NITE）
- ・ 理化学事典 第4版 岩波書店
- ・ 化学物質安全性データブック OHM 社
- ・ 化学品安全管理データブック 長瀬産業(株)
- ・ 化学物質規制・管理実施便覧 新日本法規
- ・ 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- ・ THE MERCK INDEX: ELEVENTH EDITION
- ・ ACGIH
- ・ 緊急時応急措置指針 改訂第3版 日本規格協会

【改訂履歴】

平成 24 年 09 月 19 日	第 1 版	整理番号 120919-01OK	新規作成
平成 28 年 06 月 03 日	第 2 版	整理番号 120919-02Hm	一部訂正
令和 05 年 06 月 22 日	第 3 版	整理番号 230622-03Hs	安衛法、有害性修正